SAGA GABAI GANBARUHITO TACHI

相浦先生と宮原先生

佐賀県小城市の接骨院・相浦先生と福岡県久留米市の歯科医院・宮原先生の対談

自由診療と保険診療

宮原　僕が保険診療を辞めて自由診療に変えたのは13年前。歯医者になって一国一城の主になったつもりでしたが、全然違うんですよ。医者も国という会社の会社員。だから自分の思った通りにはできないんですよね。どうしてもその制約がある中でしかできないというのが、嫌だな、と。やる側としては生計も立てられるしそれでもいいけど、自分や自分の家族が患者さんの立場になった時に、通り一遍の治療されたら嫌だなと思います。ずっと嫌な思いを引きずって自分をだまし続けるのが辛くて、思い切って自由診療に変えました。

相浦　いや、もうその通りなんです。私もずっと保険診療にモヤモヤしてるんです。宮原先生が自由診療をされてあったので、考え方とかにすごく興味がありました。歯医者さんで自由診療をされてある方はどれくらいいらっしゃるんですか?

宮原　自由診療だけの先生は少ないと思います。普通は保険診療をして、インプラントとか矯正とか一部を自由診療という形が多いと思います。自由診療にすることは結局、自分の家族を巻き込むので、家族の理解なしには始まりません。うちも大賛成というわけじゃなかったんですよ。正直ね、経済的な部分が大きい。ただ、妻の妹と母親が立て続けに亡くなったっていうことがあり、その時に病院側の対応で嫌な思いをして…先生がやっぱりこう、段取りでやってるなという感じで。人の生き死にがかかっているところで、段取りでやられるとちょっと…。それはもう妻が一番の当事者だったので、そういう経験を一緒にしてきてるから、保険の治療って?病院の治療って?どうなんだろうと夫婦でたくさん話し、妻も納得して保険診療をやめました。ただ、実際に保険をやめて、患者さんは減りました。というか、保険使えませんってなったら、患者さんはまったく来なかった(笑)。
でもいきなり保険を辞めたわけじゃなくて、辞める2年前ぐらいから、こういう理由で保険をやめますからって患者さんには伝えていました。保険診療時代、熱心に来てくれてた患者さんはほぼ来なくなりました。でも新たに賛同してくださるというか、僕の治療の中身をきっちり分かった方が徐々に来てくださるようになりました。

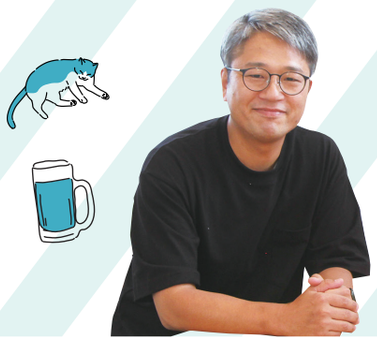
相浦　僕がしている接骨院は保険診療が基本です。鍼灸治療もしていて鍼灸は基本的に保険が効かないです。鍼灸の方が自由な方針で治療ができてます。病院の保険のように点数じゃないですけど、接骨院は、やる事と値段が決まってるんです。本当は、骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷とか、怪我の治療で大体保険が効くっていう業種なんですけど、接骨院は、保険が効いてマッサージまでしてくれるっていうイメージがついてしまっています。ちょうど僕が鍼灸の大学に行き始めた時に、接骨院・整骨院が流行りだして、儲かるという事で、接骨院・整骨院の学校が一気に増えたんですよ。すると接骨院の先生が増え、その人たちは開業権があるから接骨院がどんどん増えていきました。そこに使われる療養費の予算が上がってくるから、締め付けが起こる時代が来たんです。本来であれば、僕もどっちかというと、保険はちょっと制限して、自由診療で患者さんに寄り添いたいと考えてはいるんですけど、家族がいるのでなかなか踏み込めないという状況です。そういう中でお塩に興味を持ち始めました。きっかけは僕が子どもの学校のPTA会長していた時です。小学校に発達障害と判断された子が50人くらいいて。なんでこんなに多いんだろうと不思議でした。発達障害に詳しい人に聞いたところ、それは病院の先生たちが、発達障害のラインを決めていて、基準のハードルを下げて、早めに治療しましょうというガイドラインが決まって、そこから発達障害と判断される子が一気に増えたと言われていました。そのあたりから食育に興味が湧いてきました。基本は食べ物からではないかと、食育のシンポジウムを開催したんですが、浸透するのは難しかったです。通じなかったというか…皆さん話を聞いてその時は食の大切さを納得するんですが、皆忙しいし、時間が経てば忘れちゃう。そうすると大々的にやるより、自分個人が想いを届けたい人に個別に伝えていくべきだなと思ってから、食育の中でもミネラルが大事っていうのを知っていたので、ミネラル=お塩だから、お塩にフューチャーして健康とか運動など、病気につながるお話をしていってます。お塩がテーマの接骨院になれたらと方向転換しました。

予防治療について

宮原　今、予防ブームじゃないですか。予防医学とか、予防歯科とか…以前よりもだいぶ浸透してきていると思います。僕は歯医者なので、歯科で言えば一昔前は保険は治療に対するものばっかりが適用でした。が、現在予防という概念も一部保険の中に入ってきてるんですよ。ところが、保険診療ってそもそも何たるものかっていうのを考えたら本当に予防できるとは思えないんですよ。そこを患者さんというか、市民の皆さんがもうひとひねり考えてほしいなって思います。だって、保険の枠組みの中で本当に予防出来て虫歯がなくなったら、歯医者の一番の治療の稼ぎ処である治療というものが減るわけじゃないですか。予防ブームの本質はどこにあるのだろうと感じます。実は保険やめたばっかりの時は、結構いろいろ予防プログラムをやっていました。レーザーの機械で見えない虫歯を超早期発見して定期管理したり唾液の酸性度測定したり。そういうことを色々やってたんですけど、いやちょっとこれも違うなと思いだして。結局予防っていうんだったら、その病気がなんで発生するのかをちゃんと理解することこそがスタートじゃないだろうかと。
今、歯科で言われている予防って虫歯菌のことや歯磨き、あと甘いものはダメだとかです。でも虫歯になる前のコンテンツを見つけて気をつけましょうみたいなことはあまり言われていません。虫歯になる前のことを考えると、別に甘いものとか歯磨きってそんなに重要ではないんですよね。口の中の問題はほとんど体から来てるなっていうのを分かってきたから、究極の予防歯科は歯じゃなくて体全体にアプローチすることではないかと。栄養や姿勢とかも含めて、体の使い方も大事。結局、予防の本質って、病院選びではなく各々自分自身が今の体の状態を把握するところから始めていくことだと思います。だから相浦先生がおっしゃるミネラルが大事ってすごく共感します。歯も大部分がミネラルでできてますし。

繋がっている

宮原　どんなに甘いものを食べても歯を磨かなくても、虫歯にならない人もいる。一方、とても歯磨きを頑張ってる人でも、虫歯になる人もいる。そもそも食生活が原因じゃないかもしれないし、ケアの仕方が悪いわけでもないかもしれない。歯を食いしばったり、歯ぎしりしたりなど普段の生活のクセからきているケースが圧倒的です。歯ぎしりをするということは、首や肩のコリが原因かもしれない。全ては繋がっているということになります。だからもうそこまでいくと、歯の治療をやっても虫歯の解決にはならないなと考えるようになりました。



お塩にフューチャーして健康や運動など病気につながるお話をしていってます

あいうら接骨院・鍼灸院
院長
相浦 利孝 さん

SECOND SAGA
コラム
「ココロトカラダノワン"セル"論」
連載中

【profile】佐賀県小城市三日月町生まれ、46歳。家族は、妻、娘4人、ネコ3匹。2002年に明治鍼灸大学(現　明治国際医療大学)、2005年に明治東洋医学専門学校を卒業し、2007年に開業。好きな言葉は「結局、そんなに大差なし!」

Toshitaka Aiura

色々な医療があるんだから受ける側がもっと勉強して自分で選んだ方がいいと思います

SECOND
SECOND SAGA
コラム
「むし歯のキモチ」
不定期執筆

宮原歯科医院
院長
宮原 猛 さん

【profile】久留米生まれ久留米育ち。12年間の保険医を経て2012年に保険医を辞退。「人生の中の歯」をテーマにお話会を軸に自由診療を展開。趣味は音楽とランニング、時々お酒。好きな言葉は、鮎川誠さんの「全部自分で決める。それがROCK」

Takeshi Miyahara